土壌くん蒸剤
クロルピクリン・DDくん蒸剤

三井ソイリーン®

農林水産省登録　第２２１６３号
（三井化学アグロ（株）登録）
性状：淡黄色澄明液体
毒性：劇物
危険物 :第四類第二石油類
有効年限：３年
包装：１５ℓ

有効成分：クロルピクリン（化管法第１種）・・・・・・・・４１.５％
1,3－ジクロロプロペン（化管法第１種）・・・・５４.５％

殺虫剤分類	8B，8A
殺菌剤分類	ー

ソイリーン®は（株）エス・ディー・エスバイオテックの登録商標です。

特長
○クロルピクリンの刺激臭が低減化されています。
○一回の処理で線虫及び土壌病害に優れた効果を示し、省力化が期待できます。
○効果的に製剤化されたクロルピクリンとDDが土壌中でガス化し、拡散浸透します。また線虫が引き金になって起こる複合病害に対して優れた防除効果があります。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
にんじん	しみ腐病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）					
ごぼう	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内）	１回
	黒あざ病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）					
すいか	つる割病 黒点根腐病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）					
さやいんげん	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
メロン	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内、圃場１回以内）	１回
	黒点根腐病 えそ斑点病 つる割病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）					
だいこん	バーティシリウム 黒点病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）					
はくさい	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	黄化病 根くびれ病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）					
キャベツ	苗立枯病 （リゾクトニア菌）	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内、圃場１回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）					
未成熟そらまめ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内、圃場１回以内）	１回
なす	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内）	１回
	青枯病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）					
トマト ミニトマト	萎凋病 ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	青枯病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３mℓ）					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
きゅうり	つる割病 ホモプシス根腐病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）					
ピーマン とうがらし類	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	青枯病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					
かぼちゃ かんしょ パセリ	立枯病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）					
こまつな さやえんどう 実えんどう みょうが（花穂） みょうが（茎葉） にがうり 葉しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内 （床土１回以内）	１回
レタス かぶ 豆類(未成熟、ただし、さやいんげん、未成熟そらまめ、さやえんどう、実えんどうを除く) さといも	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
ほうれんそう	萎凋病 ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内 （床土１回以内）	１回
しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内 （床土１回以内）	１回
	根茎腐敗病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					
ばれいしょ	そうか病 青枯病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）					
やまのいも	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	根腐病 褐色腐敗病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					
いちご	炭疽病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	萎黄病 ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）					
こんにゃく	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	根腐病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					
ねぎ	白絹病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）					
オクラ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
	苗立枯病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					
セルリー	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	萎黄病	３０ℓ／１０ａ （１穴当り３ｍℓ）					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
きく	半身萎凋病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）					
ストック	萎凋病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）					
チューリップ	球根腐敗病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）					
カーネーション	萎凋細菌病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）					
トルコギキョウ	根腐病 立枯病	３０ℓ／１０ａ（１穴当り３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）					
花き類･観葉植物（ストック、チューリップ、きく、カーネーション、トルコギキョウを除く）	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	２０～３０ℓ／１０ａ（１穴当り２～３ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内（床土１回以内、圃場２回以内）	１回
たばこ	ネコブセンチュウ 立枯病	（畦内土壌注入） １穴当り２～３ｍℓ	作付の３０日前まで	１回	(畦内土壌注入)畦立後、畦中央の頂上から、３０cm間隔で、３５cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
にんじん だいこん はくさい かぼちゃ ばれいしょ かんしょ さといも やまのいも こんにゃく オクラ パセリ 豆類（未成熟、ただし、さやいんげん、未成熟そらまめ、さやえんどう、実えんどうを除く）	一年生雑草	作付の１０～１５日前まで	２０～ ３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	１回	１回
ごぼう なす ほうれんそう しょうが みょうが（花穂） みょうが（茎葉） にがうり 葉しょうが さやえんどう 実えんどう	一年生雑草	作付の１０～１５日前まで	２０～ ３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３ｍℓ）	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内（床土１回以内）	１回

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数	D-Dを含む農薬の総使用回数
すいか トマト ミニトマト きゅうり ピーマン とうがらし類 いちご ねぎ セルリー さやいんげん 花き類･観葉植物	一年生雑草	作付の１０～１５日前まで	２０～ ３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３mℓ）	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	３回以内 （床土１回以内、圃場２回以内）	１回
メロン キャベツ 未成熟そらまめ	一年生雑草	作付の１０～１５日前まで	２０～ ３０ℓ／１０ａ （１穴当り２～３mℓ）	１回	耕起整地後、３０cm間隔のチドリ状に深さ約１５cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	２回以内 （床土１回以内、圃場１回以内）	１回

使用上の注意事項

●生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
●温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が７℃以上の時使用してください。
●本剤の処理に当っては、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、砕土を十分行い、丁寧に整地してから処理してください。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することをおすすめします。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適です。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆してください。
●処理は原則として作付の１０～１５日前に行ない、作付の１～２日前に畑を耕起して十分にガス抜きをしてください。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。うり類は薬害を生じやすい傾向にあるので、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
●処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
●処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意してください。
●ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
●消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の１０日以上前に施用してください。
●他剤と混用しないでください。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いてください。
●金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗ってください。
●薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないでください。
●土壌消毒機の薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使いきってください。
●処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって一様ではないので、本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

●医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないよう注意してください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やしながら安静にし、直ちに医師の手当を受けてください。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与してください。
●本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意してください。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けてください。
●本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●本剤の投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用してください。作業の際はガスを吸い込まないよう風向き等を十分考慮してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付けないでください。
●かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意してください。
●作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意してください。
●揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行ってください。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行ってください。
●住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当っては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。
　〇高温期の処理をさけ、気温の低い季節に処理するのをおすすめします。
　〇住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えてください。
　〇被覆資材は厚めのもの（０.０３mm以上）を使用してください。
　〇風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断してください。
●本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窓、側窓等を開け通気をよくして作業を行ってください。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないでください。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
●本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壌消毒機を使用することをおすすめします。
●危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。
●本剤は皮膚に対して強い刺激性があります。

水産動植物に係る注意事項

●本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないでください。
●散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

●火気をさけ、直射日光が当たらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管してください。